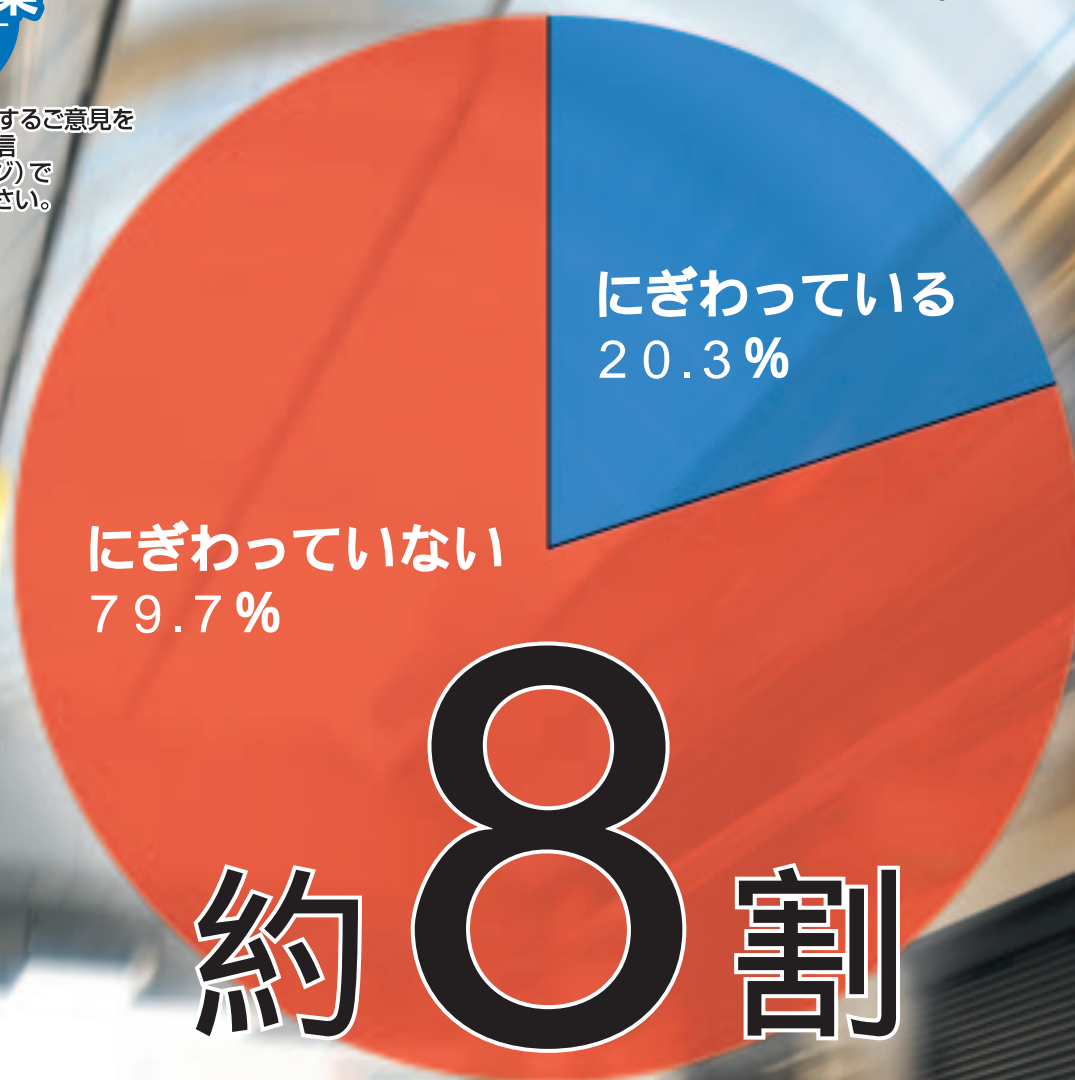


政策特集

年4回
編集

テーマに対するご意見を
アイデア通信
(政7ページ)で
お寄せください。

Q 中心市街地はにぎわっていると思いますか。



約 **8** 割

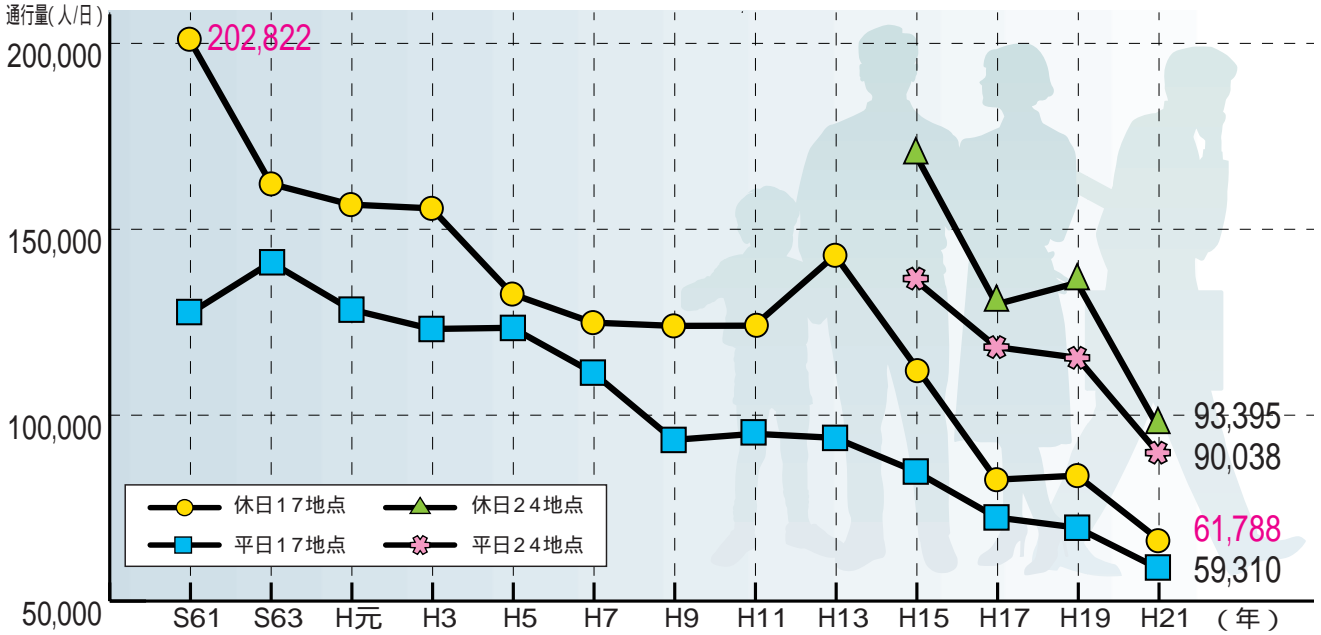
市民のほとんどが「中心市街地はにぎわっていない」

平成20年「宇都宮市民を対象とする中心市街地活性化に対する意向調査」より抜粋

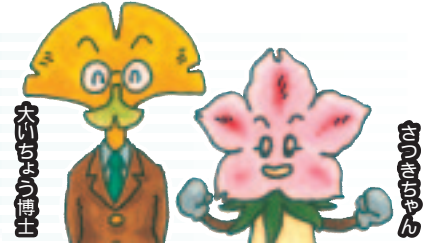
中心市街地を考える

1 歩行者通行量の推移

出典：商店街通行量実態調査



歩行者の姿がまちから消える



政 2

衰退する中心市街地

博士、ほとんどの人が中心市街地は「にぎわっていない」と感じているみたいですね。

そうなんじゃ。人口減少や高齢化、住まいと大型店舗の郊外進出、社会の進展など、さまざまな社会問題が原因で、市の中心市街地が衰退しているんじゃないよ。

博士、もう少し詳しく教えてもらえませんか？

上の表1を見てごらん。昭和61年〜平成21年にかけて、約14万人の歩行者が中心市街地から姿を消したんじゃない。これは、現在の市の人口の約4分の1に相当するほどの人数なんじゃよ。

そうなるよ、買い物をする人も自然と減ってしまいますよね？

そうなんじゃ。右下の表2の通り、平成3年と平成19年を比べると、商品販売額は約半額の986億円まで落ち込んでしまったんじゃないよ。市内全体に占める割合も、27.9%から14.8%に下がっているんじゃないよ。

だからシャッターが閉まったままのお店が多いんですね。さらに全国的な長期不況によって、中心市街地の空き店舗

数が増えているんじゃないよ。その内訳は、店舗面積の広い大型の空き店舗が増えてきているんじゃないよ。今、中心市街地はまさに危機的状況にあるんじゃないよ。

なぜ、活性化は必要なのかな？

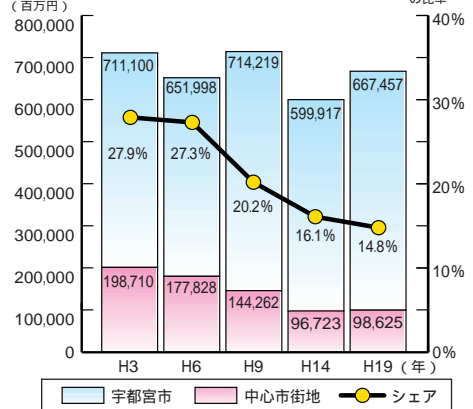
中心市街地が衰退していることとは分かったわ。でも博士、中心市街地だけが宇都宮じゃないですよ？近所でお買い物はできますし、中心市街地に行かなくても全然平気ですよ。

郊外にも大きなお店がたくさんあるからね。でもね、さつきちゃん。中心市街地の活性化に取り組むことは、市全体のまちづくりの発展と課題の解決につながっているんじゃないよ。一緒に考えてみよう。

中心市街地が衰退していることとは分かったわ。でも博士、中心市街地だけが宇都宮じゃないですよ。近所でお買い物はできますし、中心市街地に行かなくても全然平気ですよ。

郊外にも大きなお店がたくさんあるからね。でもね、さつきちゃん。中心市街地の活性化に取り組むことは、市全体のまちづくりの発展と課題の解決につながっているんじゃないよ。一緒に考えてみよう。

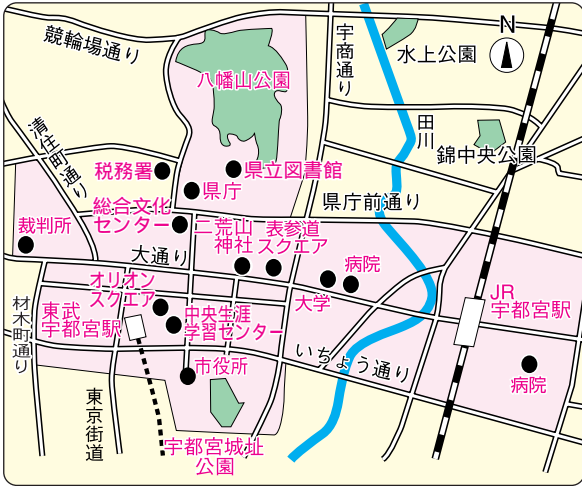
2 年間商品販売額の推移



出典：商業統計調査

(注)表紙の円グラフは、「そう思う(2.9%)」「どちらかといえばそう思う(17.4%)」「どちらかといえばそう思わない(42.8%)」「そう思わない(36.9%)」の4つの選択肢で回答を求めた調査結果を、「どちらかといえば」を含み入れる方法で作成したもの。

3 主な公共公益施設の分布状況



4 世帯当たり年間ガソリン使用量 (平成20年)

	世帯当り年間ガソリン使用量 (L/世帯) [A]= [B]/[C]	世帯当り年間ガソリン支出額 (円/世帯) [B]	年平均価格 (円/L) [C]
宇都宮市	654.7	100,982	154.25
県庁所在地平均	415.1	65,178	157.01

1 総務省「家計調査」より引用。
2 財団法人日本エネルギー経済研究所 石油情報センター(局、県別)より引用。

分かりました。博士、中心市街地が衰退すると、どうなってしまうんですか？

ある県庁所在地では、県庁が郊外へと移転した上に大型店舗も撤退して、中心市街地から人が消えようとしているんじゃない。そうなるからでは、多くの人が働いたり遊んだりする、まちとしてのまとまりを保つことができないじゃない？

そうですね。それじゃあ、中心市街地だけに求められている役割って、何かあるんですか？

中心市街地は、市外から訪れた人が最初に宇都宮を感じる場所なんじゃよ。そして、宇都宮の歴史・文化が集積する「市民の心の

よりどころ」でもあるんじゃない。中心市街地って、宇都宮の「顔」なんですね。

ところでさつきちゃん、左の図3を見てもらえん。中心市街地には多様な公共施設もあるじやろう。限られた財源の中で効率的なまちづくりをするには、既に集まっている多様な機能を有効に活用することも大切なんじゃないよ。

今あるものを十分に生かさないで、もったいないですよ。そして、少子高齢社会の到来や事故・渋滞などの交通問題を考えると、自動車での移動に伴う危険や費用をできる限り抑える必要があるんじゃない。

危険や費用をできる限り抑える必要があるんじゃない。

改めて問われる 中心市街地の役割

車を運転できない子どもや高齢者、障がい者もいますし、環境の問題もありますよね。でも博士、車に乗らないとどこにも行けません。車を控えた生活なんて、考えただけでもとても不便です。

左上の表4を見てもらえん。平成20年の時点で、宇都宮市の世帯当たり年間ガソリン使用量は、すべての県庁所在地の中で最も高くなるんじゃないよ。だから、中心市街地の居住や暮らしを促すことで、徒歩や自転車でも移動ができる、コンパクトシティを作り出す必要があるんじゃない。

中心市街地に来れば、誰もが、どんな用事でも、気軽に、安心してできる。そんなバリアフリーに対応した交通環境も必要ですね。

自動車以外の交通手段で目的地に移動しやすいと、その目的だけで終わらずに、目的地以外の場所にも立ち寄りやすくなり、「にぎわい」が生まれるんじゃない。そして、訪れた人たちに「もう一度来てみた

い」と思ってもらえるように、宇都宮の魅力を中心市街地から発信することが活性化には必要んじゃないよ。

中心市街地に住む人たちが、商店街の取り組みが鍵になりそうですね。

将来的に予測される、少子高齢化や環境などの社会問題がもう目の前まで迫っているんじゃないよ。これらを踏まえると、もう一度中心市街地の役割を、さまざまな角度からとらえ直す必要があるんじゃない。

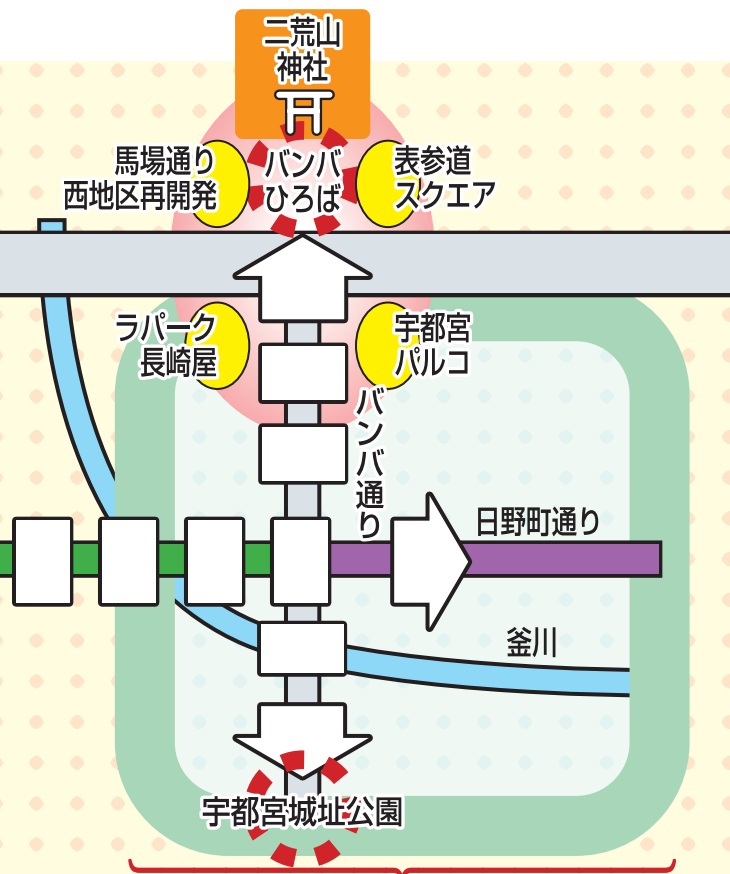
中心市街地は「働く」「遊ぶ」「食べる」「学ぶ」「育てる」など、市民生活のさまざまな場面で深くかかわっていましたね。

その通り。中心市街地は、市民生活を支える上でなくてはならない「生活インフラ」なんじゃ。市では、ネットワーク型コンパクトシティの都市拠点として、中心市街地が公共的役割を果たし、多様な交流の中心地となることを目指しているんじゃないよ。

中心市街地は「働く」「遊ぶ」「食べる」「学ぶ」「育てる」など、市民生活のさまざまな場面で深くかかわっていましたね。

その通り。中心市街地は、市民生活を支える上でなくてはならない「生活インフラ」なんじゃ。市では、ネットワーク型コンパクトシティの都市拠点として、中心市街地が公共的役割を果たし、多様な交流の中心地となることを目指しているんじゃないよ。

3 インフラストラクチャー(社会資本)の略称。市民全体で利用されるものことで、道路や鉄道などの産業基盤を支える産業関連社会資本と、公園や下水道などの生活を支える生活関連社会資本に分類される。



※5 宇都宮中心商店街活性化委員会



ふるさと宮まつり
宇都宮餃子祭り2009
宇都宮城址まつり



わき出す 商店街の力

「ところでさつきちゃん。みんなで中心市街地を活性化させるために、どんな取り組みが必要になると思っかね？」

「みんながそれぞれの役割のもと、協力し合って活性化に取り組むことじゃないかしら？」

「みやヒルズどっとこむ」って知っているかい？中心市街地の大型商業店と商店街が垣根を越えて、中心市街地の活性化を目標に活動しているんじゃないよ。

「イベントやセールを協力してやっているのね。お買い物ももっと楽しくなりそうだね。」

「宇都宮中心商店街活性化委員会では、テレビ局と共同して、中心市街地を広範囲にわたってカバーする公衆無線LANを、県内で初めて整備したんじゃないよ。」

「公衆無線LANに接続すると、どうなるんですか？」

「最初に中心市街地の飲食店や商店街の情報がまとまったポータル（玄関）サイトが表示されるんじゃないよ。ここには特売情報や割引券などが載っていて、公衆無線LAN利用者も商店街へと誘導し、売り上げにつなげる仕掛けがあるんじゃないよ。」

「中心市街地の商店街の魅力がまた1つ増えましたね。」

中心市街地は新たなステージへ

「博士、中心市街地の新たな魅力について、もっといろいろ教えてください。」

「さつきちゃんは、オリオン通りに、宇都宮が誇る商品の魅力や価値を発信するアンテナショップができたことは知っているかい？」

「オリオンスクエアの向かい側にできた「宮カフェ」(5ページ参照)のことですね。」

「これは空き店舗対策の一つでもあるんじゃないよ。宇都宮産の野菜・果物などの地元農産物や、宮染め・大谷石などを使った地元特産品が売っていることは知っているんじゃないよかにも、宇都宮の観光情報やプロスポーツチームの紹介、さらには地元の食材にこだわったビュッフェ形式のレストランもあるんじゃないよ。」

「オリオンスクエアでは、たくさんさんのイベントが行われていますよ。」

「例えば、プロスポーツのパブリックビューイング(中継観戦)やジャズのコンサートをオリオンスクエアで行い、宮カフェと一体

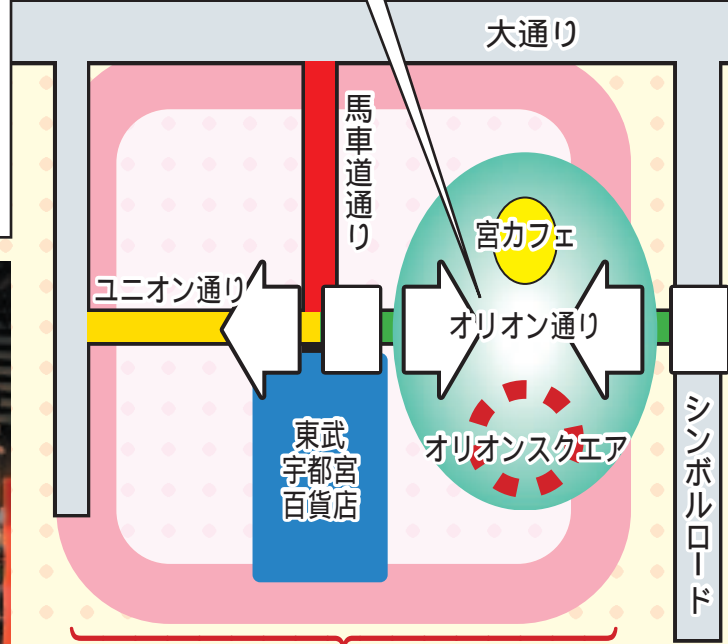
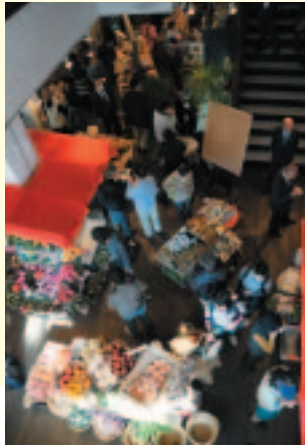
4 みやヒルズどっとこむとは、宇都宮中心商店街T-O-B-U活性化委員会の愛称のこと。T-O-B-Uは、東武宇都宮百貨店、オリオン通り商店街、馬車道通り商店街、ユニオン通り商店街の頭文字をとっている。



「宮カフェ」「オリオンスクエア」活用イメージ

宮カフェ

ミヤ・ジャズイン2009



4 みやヒルズどっとこむ

政 5

これまでの主な取り組み

都心循環バスの運行
市内を20～30分間隔で循環する「きぶな」。民間事業者によって、乗車料金150円で運行しています。レンタサイクルの利用促進
駅から駅、まちからまちへ、回遊性を高めるために、4カ所の駐輪場でレンタサイクルを1日1回100円で実施しています。
中心商店街景観整備支援事業
商店街が行う建物正面の景観整備やモニュメントの設置など、費用の一部を補助します。
若年夫婦世帯家賃補助
中心市街地内にある民間賃貸住宅に、転居・転入する若年夫婦世帯へ、家賃の一部を補助します。
中心商業地出店等促進事業
中心商業地の空き物件および大谷石蔵を活用する出店者を支援し、内装改造費や家賃の一部を補助します。
うつのみやイルミネーション
毎年冬に、中心市街地の商店街や歴史的拠点等を光で彩ることで、そこを歩き、楽しんでもらうためにイルミネーションをしています。

一人ひとりの小さな発見こそが 活性化への原動力

的に活用することで、新たな交流・情報発信の場となるような仕組みづくりも考えているようじゃぞ。

市外から来た人も、宮カフェができたことでもっと「宇都宮の魅力」を味わいやすくなるし、歩いて楽しい中心市街地に、回遊性や新たな交流が生まれそうだな。

宇都宮の中心地として、昔から親しまれてきた二荒山神社の「前も、門前町宇都宮」のランドマークとなるバンバひるばを整備しているんじゃないよ。オリオンスクエアとバンバひるば、宇都宮城址公園が中心市街地の拠点広場となって、さまざま

まなイベントが行われているんじゃない。新たな取り組みがたくさんあるんですね。博士、私にも何かできることはありませんか？

まずは家族や学校のお友達と、宇都宮の中心市街地について話してみたらどうじゃろう？そして一緒に出掛けてみたら、何か新しい発見や楽しみ方がきつと出てくるはずじゃ。その発見こそが、活性化の原動力になるし、そうすれば中心市街地がもっと身近に感じられるよ。

分かりました、博士。今日、早速家族やお友達とお話ししてみたいと思います。

5 宇都宮中心商店街活性化委員会は、パルコ宇都宮店・ラパーク長崎屋・うつのみや表参道スクエアテナント会の3店舗と、バンバ通り商店街・オリオン通り曲師町商業協同組合・二荒通り商店街・馬場町商店街・日野町商店街振興組合・鉄砲町商店会・馬場南通り会・互運会の8つの商店街、そして宇都宮屋台横丁で構成される。

楽しく回遊できるまちを目指して

五十嵐 幸子さん



歩くだけで楽しいものを 中心市街地に

私は雑誌などの媒体を通して宇都宮の魅力や情報を発信する傍ら、「ORIGAMI」の名を海外に広めた創作折り紙作家の故・吉澤章さんの作品保存活動をしています。中心市街地の店舗やスペースにテラコッタの造形作品を飾る「街ごとギャラリー」などこりやDEBUT」などの企画・運営にも携わってきました。共通しているのは、アートを「回遊性のあるまちづくり」に生かしたいということです。

回遊性の鍵は 目的づくりと仕組みづくり

宇都宮の中心市街地は、回遊性よりは目的を持って行くエリアという印象です。例えば、古いまちなみが残る地域では散策が目的となり、自然と回遊性が生じますが、そうではない宇都宮は発想を変えて、まちなかを歩く動機付けを行うことが必要だと思っています。

昨年、中心市街地への来訪者が一

昨年と比べて減少したそうですが、宇都宮餃子会の「来らっせ」は逆に、集客が増えています。県外の人が「餃子」という目的で訪れたのです。こうした動機付け「魅力ある場所を複数作ることで、回遊性を向上できないでしょうか。

宇都宮の中心市街地は、機能性の面では大変魅力的です。そこに「見る」「遊ぶ」などの目的が加われば、まちを移動する機会が増えます。

それらの目的や県内の観光、イベントなど、あらゆる情報を集約し、発信する場所もまた目的地となるのです。既存のものや空きスペースを利用し、民間のアイデアで「面白いもの」「楽しいもの」「役に立つもの」をどんどんつくればいい。「中心市街地に行けば何かが入る」と認識されることが肝要だと思います。

活性化の課題は居住と交通

山島 哲夫さん



求められるのは まちを守るメイクドラマ

北関東道によって商圏が変化している観があり、折り込みチラシなどには県境はないようです。今後、分権化が進めば、地域間の格差も生まれてくるでしょう。地域経済を衰退させないために、地域独自のカラーや魅力を創造し、発信することは、未来の生活を守ることに直結するはず。中心市街地はその象徴なのです。

宇都宮餃子がこれほど人気を得ている背景には、宇都宮の人たちが餃子文化を誇りに思っていることが大きいと思えました。こうした共有感覚は、地域発展の原動力となります。まちづくりや文化を市民が共有し、それを守っていくドラマを市民・商店街・行政が協働でつくっていったらいいと思います。まずは、一人ひとりが週に一度は中心市街地に行ってみることから始めてみませんか。

宇都宮は、全国的に見てもクルマ依存度が極めて高い都市です。中心市街地も、残念ながらにぎやかな印

象は受けません。近年は人の流れが郊外に大きく移っていますが、中心市街地には歴史や伝統など、宇都宮

プロフィール

五十嵐 幸子さん

- ・PRプランナー/エディター
- ・宇都宮市出身。宇都宮市の中心市街地を盛り上げる企画の運営に携わる。
- ・「秘訣は官民一体 ひと皿200円の町おこし」(小学館101新書)著者。

山島 哲夫さん

- ・宇都宮共和大学シティライフ学部教授
- ・宇都宮市中心市街地活性化協議会専門部会長として新しい中心市街地活性化基本計画の策定に参画。



五十嵐 幸子さん



山島 哲夫さん

宇都宮の中心市街地では、人口が減少傾向にあり、高齢化が進んでいます。このままでは限界集落になる恐れのある地域もあります。

中心市街地は単に決まりきった仕事や買い物、必要な用事を済ますだけの場所ではなく、さまざまな活動を行い、楽しめる場所なくてはな

市民の生活圏としての中心市街地

のまちとしての原点があり、まちへの愛着を生み出す源があります。全国的には、中心市街地からこうしたまちの原点が既に無くなってしまったところもあるなかで、宇都宮はこれから魅力的なまちにしていける可能性がまだ十分残っていると思います。しかし、他人任せでまちが活性化した例はないということも、ぜひ、知ってもらいたいです。

りません。さらに、居住の場所でもなければなりません。そうでなければ、昼間だけは人がいて、夜は閑散とした「定時制」のまちとなってしまいます。中心市街地の文化を支えるためにも、昼夜を通した「全日制」の市民が必要なのです。

第1は居住政策です。新たなマンション供給も意味はありますが、それよりも今ある住宅の有効活用が大切です。また、まちなかに人が住むためには、まちなかの暮らしの魅力

を高める努力も必要です。第2は交通政策です。公共交通は便利で使いやすいしなければなりません。現状では、どこの都市でも乗客が減少していて、より便利にするには限界があります。そこで、例えば公共交通機関と商店街で同じカード

中心市街地活性化策と合わせて行すべき政策的な課題

中心市街地活性化策に合わせて実施すべき、政策的課題が2つあります。第1は居住政策です。新たなマンション供給も意味はありますが、それよりも今ある住宅の有効活用が大切です。また、まちなかに人が住むためには、まちなかの暮らしの魅力

以上に連携を図る必要があります。

アイデア通信

中心市街地について私はこう考えます

1 にぎわいのある中心市街地にするためには何が必要だと思いますか？

2 中心市街地を活性化するために、あなたには何ができますか？

まちのお客さんから活性化の主役へ

このままクルマ社会を続けることは困難であり、徒歩や自転車を前提とした中心市街地にしていくことが求められています。そのために、公共交通に力点を置いたコンパクトな都市をつくることが必要不可欠です。市民一人ひとりが、お客さんとしてではなく、まちの活性化の主役であるという意識で、何ができるかを考えてみるのが大切なのではないでしょうか。

あなたの意見をお寄せください

市民の皆さんから、「中心市街地を考える」についての意見・提案をお受けします。寄せられた意見・提案などは、施策の参考とします。なお、一部を後日、広報紙で紹介いたします。質問などへの回答は、直接本人あてに返信しませんので、ご了承ください。

左のはがき（切手不要）を切り取り、1月18日（月）までにポストに投函してください。ほかのはがきや切手、ファクス、Eメールでも受け付けます。

送付先

〒320-8540 市役所総合政策部広報広聴課

☎(632)2025、☎(639)0627

Eメール：u2030@city.utsunomiya.tochigi.jp

政策特集「中心市街地を考える」についての問い合わせ先
総合政策部地域政策室

☎(632)2119、☎(632)7072

Eメール：u2010@city.utsunomiya.tochigi.jp



前回の政策特集「宇都宮のプロスポーツ」に対して市民から21件の意見をいただきました。代表的なものを紹介します。

(1) 宇都宮のプロスポーツを盛り上げるために必要なことは何だと思いますか？

メディアでのPRが必要。ジャパンカップのテレビ放映(生放送)が無いことがとても残念。家に居ながら、家族みんなで応援できるので、スポーツならまずはテレビ中継が重要だと思う。

プロにあこがれる人が多ければ自然に盛り上がると思う。また、財政上簡単でないのだろうが、施設の拡充も必要だと思う。プロスポーツが発展しつつあるなかで、プロチームが使用するため施設の予約が取れないことがあり、困っている。

(中戸祭・30代)

自転車競技が大好きで、ジャパンカップをいつも楽しみにしている。好きな人は見に来るが、知らない人は見に来ないと思う。交通面で大変だと思うが、スタート地点をJR宇都宮駅にしてほしい。これが15年前からの夢。ブリッツェンもできたので。

(駒生町・40代)

商店街が応援フラッグを購入する際の補助金が必要。仙台などサッカーに力を入れている都市は試合日になると、店頭でチームフラッグが並ぶ。業種に関係なくいろいろな店に飾ってある。「試合日にはフラッグを飾ろう」と市が音頭をとってくれば、もっと盛り上がるのでは。(西・20代) 中心市街地だけでなく、もっとさまざまな所に栃木のプロスポーツの応援フラッグを掲示した方がよい。たとえ、人が少ない地域でも、地域密着ということで、いろいろな所へ行っても見掛けることができるようになったらうれしい。また、テレビでもっと積極的に栃木のプロスポーツを放映すべき。興味があっても、会場に観戦に行けない人もいる。みんなに知ってもらって栃木を盛り上げるためにも、放映が必要。

(20代)

何よりチームが強くなる必要があると思う。もちろん、勝負事なので常に勝ち続けることは無理だが、応援しているチームが勝つとファンは勇気や希望をもらえるし、勝利の話題は家庭や職場などを明るくしてくれる。チームが強くなるためには、ひとりでも多くの人が応援することも大切だけど、一流の選手たちに栃木のチームを選び、入ってもらふ必要もあるので、スタジアムや体育館など試合や練習で使うところをしっかりとさせることも大切。

(砥上町・60代)

地元出身の選手の活躍が必要。年月はかかるが、宇都宮で育った選手が地元のチームで活躍することで応援のきっかけや動機にもなると思う。

(鶴田町 30代)

栃木SCの試合は、テレビや会場で観戦している。アウェーの試合は結果だけしか知ることができないので、テレビ放送をしてほしい。サポーターの獲得には、①強くなること②地元出身の活用③来場者へのサービス④シーズンオフに選手自身のPR活動が必要。

(西川田本町 60代)

広報うつのみやの政策特集は、皆さんと一緒に考えていただきたいテーマを取り上げ、年4回編集します。

前回の政策特集「宇都宮のプロスポーツ」の概要



プロスポーツはまちを元気にします

地元で根ざすプロスポーツは、私たちに「誇り」を与えてくれる「あこがれ」の存在です。試合会場は人々の「交流」の場となり、ヒト・モノ・情報の新たな循環が地域に大きな「経済」効果をもたらします。

市では、「栃木SC」(サッカー)、「リンク栃木ブレックス」(バスケットボール)、「宇都宮ブリッツェン」(自転車ロードレース)の3チームが活動しています。各チームとも、プロとして熱い戦いを見せてくれたり、積極的に地域貢献活動を行ったりと、私たちの身近な存在となっています。

プロスポーツと私たちの輪

プロスポーツは私たちの生活のいろいろな場面にかかわっています。

市民は試合を観戦するほか、ボランティアとしてチームを支えることもあります。商店街は応援フラッグを掲示したり、イベントを開催したりしています。また、企業はスポンサーになり、メディアは試合結果などを報道します。行政も、試合会場の確保や地域貢献活動のバックアップなどを行っています。

プロスポーツの持つ魅力をまちづくりに生かすためには、このかかわりを深めていくことが必要です。

郵便はがき

料金受取人払

3208740

宇都宮中央局
承認
3017

差出有効期間
平成22年7月
14日まで

【切手不要】

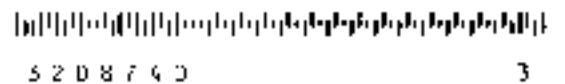
(受取人)

宇都宮市旭1丁目1番5号

(宇都宮市役所)

宇都宮市総合政策部広報広聴課

行



氏名	住所
年齢 歳	職業

差し支えがなければ記入してください。広報紙で意見を紹介する際には、氏名の記載はしません。なお、はがきの情報については、目的以外には使用しません。